

離島におけるがん患者の現状と がん相談専門員としての課題

平成27年2月1日(日)
鹿児島県立大島病院
がん相談専門員 屋 ます江

大島郡医療機関におけるがん治療の現状

(2013年調査結果)	病院	診療所
落ち着いた状態であればがん患者の診療を担当できる	6	20
がん末期であっても患者の診療ができる	6	20
がん患者の入院設備がある	6	2
放射線治療	1	0
化学療法	3	3
気管切開の実施	3	1
胃ろう造設	3	2
中心静脈栄養用ポートの作成	1	1
医療用麻薬を処方できる	6	9
在宅支援診療所との連携	6	7
訪問看護ステーションとの連携	6	8

がん患者に関する在宅訪問診療の現状

(2013年5月調査結果)	病院・診療所
落ち着いた状態であればがん患者の訪問診察を担当できる	25
がん末期であっても患者の訪問診察を担当できる	20
医療用麻薬を処方できる	24
訪問看護ステーションとの連携	21
末梢点滴が必要ながん患者の訪問診察が担当できる	19
中心静脈注射が必要ながん患者の訪問診察を担当できる	17
持続皮下注が必要ながん患者の訪問診察が担当できる	19
経管栄養のあるがん患者の訪問診察が担当できる	20
在宅酸素をしているがん患者の訪問診療ができる	22
人工肛門のあるがん患者の訪問診療ができる	20
胸水, 腹水に対して穿刺, 廃液を在宅で行うことができる	15
在宅でのがん患者の看取りができる	22

がん患者に関する訪問看護の現状

2013年
5月調査

訪問看護ステーション10施設(奄美大島に9施設)	8施設解答	
末期がん患者を担当できる	8	8
在宅での看取りができる	7	7
末梢点滴が必要ながん患者を担当できる	8	8
ポート管理ができる	3	3
在宅酸素を使用しているがん患者を担当ができる	5	5
持続皮下注が必要ながん患者の担当ができる	8	8
輸液ポンプを使用しているがん患者を担当できる	4	4
経管栄養で栄養管理をしているがん患者を担当できる	7	7
胃ろうのあるがん患者を担当できる	7	7
人工肛門, 人工膀胱造設患者の対応ができる	8	8
麻薬を用いた疼痛管理	7	7
24時間体制加算	7	7

がん相談支援センターの相談内容と件数

	24年度	25年度	26年度(4~8月)
がん治療	5	2	3
セカンドオピニオンについて	5	6	4
受診方法・入院	4	1	0
転院	3	2	1
医療機関の紹介	3	0	0
在宅医療	20	8	4
症状, 副作用, 後遺症への対応	0	1	1
医療費, 生活費, 社会保障制度	7	10	4
不安, 精神的苦痛	3	4	4
退院	4	6	4
医療者とのコミュニケーション	6	0	4
その他	4	3	6

奄美の患者の特性

1. 高齢で独居世帯が多く、医療依存度が高い
2. 子供の住んでいる地域の大学病院等で手術を希望し、術後の化学療法や緩和などで大島病院へ入院するケースがある
3. 県外でしかも大きな病院でと言う傾向にある。
4. がんと周囲に知られたくないという思いが強い
5. 経済的な問題で治療を受けなかったり、途中で中断したり、進行してから受診するケースがある
6. 最期を地元奄美で過ごしたいと帰郷するケースがある

現状の問題点

1. がん相談支援センターに対する認知度が低い
2. 離島を多く抱え、医師不在地域がある相談するところが身近にない
3. 医療機関を受診するにあたり地理的な問題があり、交通機関が少ない
4. 奄美群島内に緩和ケア病棟がない
5. がんサロンへの参加者がなく活動できていない

今後の課題

1. がんについて知識の普及（住民へ）
2. がん相談支援センターの周知，広報
地域の医療，介護等と連携し，がん
相談支援センターを周知
3. 相談窓口を相談しやすい環境にする
4. 参加しやすい患者サロンの創意工夫